

<< 第5次朝日町総合計画・朝日町総合戦略における成果指標等検証状況一覧表 >>

区分	施策分野	主要施策	担当部署	成 果 指 標 等							第7回委員会（R01.12.03）における意見等		
				項 目	単位	H 2 6 （基準）	R 2 （中間）	R 7 （最終）	H30実績、H31.04.01現在		委 員 意 見	回 答 ・ 対 応 等	
									成果数値	達成状況等			
1 子育て・教育	11 子育て支援	116 非婚化・晩婚化対策の推進	企画振興課 健康課	【総合戦略】 婚活事業の参加を通じて結婚したカップル数 〔累計〕	組	(H28) 0	15	30	1	H28比較：＋1組 （皆増） ※第3回検証委員会 で成果指標を下方修正	△	●「50代以上が参加できる婚活イベントがないか」という話があった。高い年齢層をターゲットにした婚活イベントも考えて欲しい。現在の年齢要件を超えた婚活イベントもあればよい。 ●婚活イベントへの補助もあるが、平成30年度より、1回あたり300千円から100千円に減額となった。当該補助金の増額はできないのか。 ●婚活イベントでは、「応募者から抽選で男女の参加者数を揃える」とのことであるが、応募者全員を参加させた方がマッチング機会も広がるのではないかと考える。	●婚活イベント実施にあたり、年齢要件は45歳までと一定の配慮をしているところである。 ●婚活イベントへの補助の外、同窓会や同級会を開催する際に補助をするといったことなども、民間の力により低予算で考えてもよいではないかと考える。 ●1対1のフリートーク実施や予算の範囲内での食材等の準備もあり、男女同人数とする人数制限を行った。今後、人数を差があってもできる方法も検討したい。
1 子育て・教育	12 学校教育	122 学校施設環境の充実	教育委員会	学校教育用コンピュータ整備率	%	14.4	20.0	25.0	33.3	H26比較：＋18.9 （最終目標達成）	◎	●朝日町では、子どもの教育に関し、パソコンやタブレットといったハード面の充実が図られている。これからは、これらを活用するソフト面が重要となるが、豊かな自然とIoT（モノのインターネット）との関連性・連携など、どのような展開を考えているのか。 ●朝日町は、子育て支援に力を入れており、経済的支援やICT教育の充実など、優遇されていると感じている。若者は、何に魅力を感じているのか。ふるさと教育の外、ICT教育にも目を向けるとともに、高齢化社会とSociety5.0を結び付ける施策もあってよいと考える。	●Society5.0（超スマート社会）は、加速度的に進展する。IoT技術は、このような社会に生きる子どもたちに必須のツールになっていく。町では、ICT環境を整備してきた。ただし、これは手段であり、目的ではない。ここからがスタートである。その取組みとして、来年度の学習指導要領全面改訂のタイミングで、県内初の「デジタル教科書」を導入することとしている。また、デジタル教科書を活用したふるさと教育も進める。そして、より一層、朝日町の魅力を感じ取ってもらうことに繋がればよいと考えている。 ●現代の子どもたちは、インターネットで知りたい情報を取得している。このような子どもたちに、どのように魅力を発信していくのが大切であると考えている。
1 子育て・教育	12 学校教育	126 ふるさと教育の推進	教育委員会 企画振興課	【総合戦略】 地域に誇りを感じている若者の割合	%	54.9	70.0	80.0	49.4	(H29) H26比較：▲5.5 ※平成29年度アンケート調査実施	▲	●成果指標の数値が下がっているアンケート結果であるが、朝日町はふるさとチャレンジ検定やバスツアー等ふるさと教育にしっかり取り組んでいる。「ふるさととの良さは、離れてみて初めて実感する」という。これは、小さい頃に町の良さや温かさを体感するからである。このことから、今後、当該成果指標は上昇してくるものと推察する。	
3 産業振興	32 企業立地	322 新工業団地の整備	商工観光課	【総合戦略】 新規工業用地造成面積 〔累計〕	m ²	(H29) 27,000	48,000	60,000	39,000	H29比較：＋12,000m ² （＋44.4%） ※第3回検証委員会 で成果指標を下方修正	△	●ストック用地があったことで企業誘致・進出に繋がっている。今後、新たな造成が必要であると考える。	●町では、第1から第3までのストック用地を保有している。そのうち、第1は既に企業に売却した。第2については一部を企業に売却した。第3は、現在造成していないが、進出企業が決定した段階で造成に入る。
4 観光・交流	41 観光	411 観光素材の魅力向上	商工観光課 農林水産課	【総合戦略】 観光客入込数〔年間〕	万人	25.0	45.0	50.0	30.8	H26比較：＋5.8万人 （＋23.2%）	△	●北陸新幹線開業以降、朝日町の観光は上向きである。今後も「町の観光をどう考えるか」再点検しながら、取り組んでいかなければならない。	
4 観光・交流	41 観光	415 観光拠点の整備 （町の特性を打ち出した観光の提供）	商工観光課	【総合戦略】 ヒスイ海岸観光入込客数〔年間〕	万人	9.4	20.0	22.5	15.4	H26比較：＋6.0万人 （＋63.8%）	△	●ヒスイテラスの活用方法が、あまり見えてこない。当該施設は多くの方々に利用されているが、「何もない」という意見を聞く。関係人口の講演会で、「関わりの階段」の話があった。特産品などで朝日町に興味を持ってもらうきっかけが必要である。関わる段階、魅力づくりを踏まえないと、来訪してもらえない。	●町として、ヒスイ海岸周辺 の環境整備を進めてきた。今後は、民間の活力を積極的に導入していかなければならないと考えている。その中で、町としてもバックアップしていかなければならないと考えている。「ヒスイテラスに喫茶店があればよい」という話も聞く。このことに関し、様々な場面を捉え、「通年でなくても、1箇月のうちの数日間や海水浴時期といった季節限定でも出店してもらえればよい」という話をしているところである。

<< 第5次朝日町総合計画・朝日町総合戦略における成果指標等検証状況一覧表 >>

区分	施策分野	主要施策	担当部署	成 果 指 標 等							第7回委員会（R01.12.03）における意見等		
				項 目	単位	H 2 6 （基準）	R 2 （中間）	R 7 （最終）	H30実績、H31.04.01現在		委 員 意 見	回 答 ・ 対 応 等	
									成果数値	達成状況等			
5 定住	52 移住・定住	524 地域の受入れ体制の充実	商工観光課 総務政策課 企画振興課	【総合戦略】 地域おこし協力隊の定着人数〔累計〕	人	—	4	10	3	基準値とする。 ※	●地域おこし協力隊及び地域おこし企業人を誰かが繋いでいるという接点があるが、あまり見られない。報告会が実施されれば、どのような活動を行っているのか見えてくると考える。 ●地域おこし協力隊が3年の任期を終えて、スキルを習得し、定住まで結び付けるのは、相当ハードルが高い。本当に就業できるか、独り立ちできるか、受入側にも責任が付いて回る。将来的にどのように農業や水産業をバトンタッチしていくのかを踏まえて受入れを考えなければならない。 ●国の制度で任期が最長3年ということは承知しているが、この任期を延長できよう、国に要望することはできないか。 ●地域おこし協力隊は、地域及び隊員間相互の交流が少ないと感じている。本気で起業を目指す場合、商工会との連携が必要である。今後、地域との結び付きや繋がりを大切にしたい積極的な取組みを進めて欲しい。 ●地域おこし協力隊は、町にとって貴重な人材となる可能性を秘めている。人手不足が取り沙汰されている中、地域おこし協力隊も応募者が減少し、全国で奪い合いになっているということはないか。 ●地域おこし協力隊や移住に関しては、日本全体が曲がり角に来ていると感じている。起業マインドとコミュニケーション能力を備えた地域おこし協力隊が、町に残ってくれるものと考えている。そのような人が来るように、また、そのような隊員となるようにしてもらいたい。	●地域おこし協力隊には、起業を目指す者もいれば、就職を希望する者もある。当該制度を活用して、ゆっくりと朝日町での暮らし、仕事、地域の人々との関わりを考えることで、朝日町での定着に繋がられるものと考えている。地域おこし協力隊及び地域おこし企業人における横の繋がりを行政・民間ともに、後押ししなければならないと考えている。 ●地域おこし協力隊及び地域おこし企業人の受入れを行っているが、試行錯誤しながら進めているところであり、慎重に対応しなければならない。地域おこし協力隊という名称であるが、「地域が、その者をおこしているのではないか」という見方をされる方もおられる。 ●最終的に定住に繋がればよいが、繋がらない場合もある。定住に繋がらなくても、町が求めている施策等を振興してくれる隊員もいる。町が実施して欲しい事項を3年でよいから朝日町に来て実施してもらえればよい。	
5 定住	53 地域コミュニティ	531 コミュニティ活動の活性化	総務政策課	【総合戦略】 自治振興会提案・実施件数〔累計〕	件	2	20	20	15	H26比較：＋13件 （＋650.0%）	△	●自治振興会活動支援事業が使いづらいということはないか。また、「当該事業を活用する自治振興会が偏ってきている。」とあるが、活用に消極的な自治振興会へのPRや働き掛けをすべきではないか。	●昨年度まで別事業としていた「関所まつり」や「タラ汁まつり」も、当該事業に組み入れた。新たにイベントを実施している自治振興会もあるので、事例PRを行い、地域が活性化するような活動に繋げていきたい。
7 生活基盤	74 環境衛生	742 公害防止・地球温暖化対策の推進	住民・子ども課	町施設における再生可能エネルギー設備等導入施設数〔累計〕	施設	6	7	8	6	H26比較：現状維持	—	●朝日町が導入しようとしている再生可能エネルギーのイメージは、どのようなものか。	●現在、再生可能エネルギーに関し、研究・検討を進めている。その結果、町は再生可能エネルギーのポテンシャルが高い。当該活用に関しては、民間導入を主体としつつ、平地での活用として太陽光発電を念頭に置いている。当該太陽光を売電するのではなく、公共施設での利用することで整備を進めていく予定である。
7 生活基盤	75 情報共有、町民参加	752 行政と町民の協働・連携の推進	企画振興課 総務政策課	出前講座実施回数〔年間〕	回	10	15	20	2	H26比較：▲8回 （▲80.0%）	×	●「出前講座は住民からの要請に基づき実施するもの、タウンミーティングは町が主体的に実施するもの」というイメージを持っている。よって、タウンミーティングは町主導で開催できるのではないか。	●出前講座は、予め決定している講座から住民に選定いただき、職員が出向いて講義をするものである。中でも、消防・防災関係の講座要請が多い。今後も周知していきたい。また、タウンミーティングについても、住民の要望に応じて町長が出向いてフリートーキングするものである。 ●従来のタウンミーティングは、町長が自治振興会単位で出向き実施していたが、その場への出席者は地区役員が殆どであり、一般町民がなかなか質問しづらかった。それを集落単位での実施とし、膝を交えて話せる雰囲気ができた。数値には表れていないが、女性団体やサークル、民生児童委員との意見交換の場が増えてきている。町民と行政との垣根を低くしながら、情報収集・提供に努めたい。
				タウンミーティング実施回数〔年間〕	回	10	15	20	6	H26比較：▲4回 （▲40.0%）	▲		

<< 第5次朝日町総合計画・朝日町総合戦略における成果指標等検証状況一覧表 >>

基 本 目 標	成 果 指 標 等							第7回委員会（R01.12.03）における意見等	
	総 合 戦 略 数 値 目 標	単 位	H 2 6 （基準）	R 2 （目標）	－ （－）	H30実績、H31.04.01現在		委 員 意 見	回 答 ・ 対 応 等
						成果数値	達成状況等		
2 町への人の流れをつくる、町に人を呼び込む	若者の転入者数〔年間〕（20～39歳を対象）	人	99	120		100	H26比較：+1人 （+1.0%） △	●転入者数には、外国人が含まれているのか。	●数値は、日本人のみである。
4 時代に合った地域づくりを進める	住み慣れた地域で暮らし続けることができると感じる市民の割合	%	(H29) 72.6	75.0		(H29) 72.6	※平成29年度アンケート調査 —	●子どもたちへの教育の充実は素晴らしい。この外、子どもたち以外（年配者）が時代に取り残されないような施策に取り組んで欲しい。 ●デジタル戦略は重要である。デジタルネイティブ世代をどのように取り込むかが、企業の経営戦略となっている。若者の情報取得は新聞ではなくインターネットとなっており、我々と感覚が異なる。このような世代をどのように取り込んでいくかが重要となる。	
	地域に誇りを感じている若者の割合	%	54.9	70.0		(H29) 49.4	H26比較：▲5.5 ※平成29年度アンケート調査 ▲		